

# —第10回熱測定討論会報告—

第10回討論会運営委員長  
(東大工) 高橋 洋 一

第10回熱測定討論会は、昭和49年11月28日(木)より3日間にわたって、東京千代田区平河町の全共連ビルで開催された。折悪しく国鉄や航空会社のストライキに出鼻をくじかれたのにも拘らず、ほぼ予定通りのスケジュールで進行することができ(1件だけ、講演予定者が北海道より上京不能となったが、あらかじめ準備された原稿によって、座長に代読していただいた)、登録参加者も前回を多少下廻ったが317名を数え、まずまずの討論会であった。講演者・座長をお願いした諸先生はじめ、参会者の方々の御協力に厚く感謝したい。

今年は、昭和40年秋に第1回の討論会が開催されてから10年目にあたるので、特別企画として、「日本における熱測定のあけぼの」と題しての記念講演を、熱測定の分野での日本の先達である4人の先生方をお願いした。そのプログラムは下記の通りである。

記念講演：日本における熱測定の曙

1. 低温比熱の研究の生痕  
(東北大学名誉教授・日本大学教授) 神田英蔵
2. “移動研究”(Moving Investigation)  
— 「熱天秤分析」50余年間の雑感  
(日本鉱業(株)顧問) 斉藤平吉
3. 工業分析と温度測定  
(東京大学名誉教授) 宗宮尚行
4. “Bio-thermochemistry”への日本人の寄与  
(東京大学名誉教授) 田宮 博

4博士とも大変にお元気で、それぞれの御研究に着手された動機、研究の発展の模様などを、スライドや図表を準備されてお話しになり、参会者に深い感銘を与えた。これらの講演は、熱測定学会編集・科学技術社発行の「熱・温度測定と熱分析」1975年版(1975年10月発行予定)に、熱測定討論会10周年記念号として掲載されることになっている。

一般講演は、昨年の第9回の68件にくらべてやや増加し、74件となり、また6件の特別講演(うち2件は外国人講師)がおこなわれた。一般講演を、例年のように分類して見ると、第1表のようになる。

ここ一兩年にくらべて、熱分析関係の発表がやや少なかったようである。発表件数はそれほどふえた訳ではな

第1表 第10回熱測定討論会一般講演の分類

	第10回	第9回	8回	7回	
熱測定	熱容量	12	17	30	54
	相変化熱	3	1		
	混合熱	6	1		
	溶解・希釈熱	6	2		
	浸漬・吸着熱	2	1		
	反応熱	7	5		
	蒸気圧	3	1		
熱分析	D T A	9	5	36	18
	D S C	6	6		
	T G	2	4		
	同時分析	6	7		
	T M A	3	3		
	その他	2	8		
その他	熱伝導・熱拡散	4	7	5	5
	その他	3	0		
計	74	68	71	77	

かったが、第2日目午後を記念講演にあてた関係もあり朝9時から夕方5時まで、びっしりのスケジュールになってしまった。会場の使用時間が午後5時までであったため、時間超過にならないか、と気をもんだが、座長の方々の御協力により、ほぼ予定通りの時間に終了することができた。その反面、折角の討論会なのに、討論を途中で打ち切りねばならなかった場面もあり、残念であった。発表件数の増大は、討論会の隆盛を示すものとして喜ぶたい一方、小じんまりとして相互に意志疎通のできる討論会の特長を持ちつづけるには、現在程度の規模がせい一杯か、あるいはやや大きくなりすぎたかな、という気もしないでもない。

昨秋、昭和49年の討論会は東京地区で、ということで現地委員のつもりで準備委員長の役をお引き受けしたところ、あとになって、これは第10回にあたるので記念行事をやる、という話になり、経験不足の若輩の身には大変荷が重かったが、幸い準備委員の方々(江原勝夫、小沢丈夫、菅宏、高橋克忠、中村茂夫、三田達、村林真行、山内繁の諸氏)および学会事務局の松本直史氏らから、精神的にも実務的にも多大の御援助をいただき、どうやら大役を果すことができた。従来、準備委員会の実質的な仕事はプログラムの編成ぐらいであったように記憶しているが、本年は会場設営から記念行事まで、あらゆる実務を分担していただき、私自身について言えば、チームワークを楽しむ心境に到達したことは望外の喜びであった。上記の諸氏に厚く御礼申し上げたい。また会場係のアルバイトには関係の諸先生の教室の学生の方をお願いしたところ、連日、朝8時から夕方5時すぎまで、誠心誠意、討論会の運営に協力して下さったことを、感謝とともに附記する。